

甲状腺外科草子 51

万年筆の思い出

杉野 圭三

万年筆の好きな一家であった。子供の頃から、家には沢山の万年筆が転がっており、両親は鉛筆と同じような感覚で使っていたようだ。

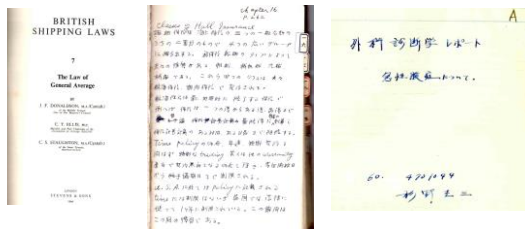
昔は舶来の万年筆が高く評価されていたが高価であり庶民層には高嶺の花であった。

しかし、1960年代からは品質の良い国産万年筆が注目され、1968年には「はっばふみふみ」のキャッチフレーズで有名なパイロットエリートが発売され爆発の人気となった。



大橋巨泉氏の CM とエリート S (PILOT ホームページより)

両親の遺品整理に時に見つけた万年筆の中ではパーカー、シェafferなどよりも国産品が多かった。パイロットのエリート、セーラー、モリソン (大正7年、奈良県創立) など多数発見し、その後手入れを行い復活させることができた。同時に父が勉強のため翻訳していた英国海上保険法 (British Shipping Laws) のノートを発見した。ブルーブラックの万年筆インクは50年以上経過しても色褪せずに残っていた。



英国海上保険法 同父の翻訳ノート 外科学レポート (小生)

小生の兄も大の万年筆好きであり、これらの遺品を分け、大事に保管している。

万年筆に恵まれた家庭環境のため、中学入学時より万年筆を使い始めた (兄のお下がり

から開始)。昔の教科書や参考書には、万年筆での書き込みが今でも残り色褪せぬ思い出となっている。



掘り出し物：上からパイロット、セーラー14K、同21K、モリソン

その頃使っていたのはベストセラーのパイロットキャップレスである。1963年に初代キャップレス (回転式)、1964年にはロック式が発売された (当時の発売価格 2000 円)。



初代キャップレス：1966年頃—大学卒業まで使用 (現在も使用可能)

この万年筆は大学時代も使用し、ノートや数多くのレポート作成に使用し愛着がある。

50年以上前の製品ながら、書き味良好で、故障も全くなかった。しかし、さすがに現役で継続使用するのは困難であり、数年前に現行品に変更した。



現在仕事で使用中のパイロットキャップレス

仕事で多くの万年筆を使っているが、ワンタッチでペン先が出るキャップレスは忙しい現場では実用的で使いやすい優れモノであり、使用頻度第一位である。

現代では優れたボールペンが多く、万年筆は絶滅危惧種となっている。しかし、家族の思い出を繋ぐ貴重な文具は捨てられない。

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2022年12月14日